

## 0-14

### 乳がん患者の健康食品利用状況

#### Prevalence of the supplement use in the breast cancer patient

○原田 佳子      三輪 祥子      高本 美和子

医療法人社団 恵正会 医療事業部 栄養課

Regarding to the age adjusted death rate to the part of cancer of 2005 from 1980, the breast cancer patient in Hiroshima is increasing year by year. Characteristic of the breast cancer patient is that there are much in a young women. Another side, according to the result Nationwide Survey in Japan, a youth and a woman have much use of the complementary and alternative medicine(CAM) . Therefore we performed questionnaire survey about prevalence of the supplement use in the breast cancer patient in the breast cancer patient society in Hiroshima prefecture. As a result, more than 50% patients used the supplement and more than 70% patients used it frequently, and about 60% patients answered that the expense of supplement costs suppress their family budget. We thought it is important telling of the supplement reasonable usage.

#### 【目的】

平成 17 年広島県人口動態統計年報によると、乳がんは、広島県のがんの部位別年齢調整死亡率の 6 番目である。昭和 55 年から平成 17 年の部位別年齢調整死亡率の推移を観察すると乳がんだけが増加傾向にある。一般的に乳がんは、手術後の経過等を長期に及んで観察されるケースが多く、患者にとって心身的にも経済的にも大きな負担があると思われる。平成 14 年度厚生労働省がん研究助成金「我が国のがん患者における補完代替医療の実態調査」では、若い患者ほど、また女性ほど CAM の利用は高いという結果が出ている。乳がん患者と健康食品の利用についての調査研究は見当たらない。そこで、我々は乳がん患者の健康食品利用状況を把握するためにアンケート調査を行った。

#### 【方法】

対象者：健康食品の適切な利用を目的としたセミナーの参加者（アンケート配布数 183 枚）でアンケートに回答した 107 名のうち、過去・現在において健康食品を利用したことがある乳がん患者 59 名。  
アンケート項目：乳がん治療の種類、治療の納得度、健康食品利用の有無、頻度、種類、利用のきっかけ、利用の目的、1 か月の平均支出額、家計への影響、効果の有無、医療者への相談、相談相手

#### 【結果】

乳がん患者の健康食品利用は 55.1%であった。治療に納得している者よりも、納得していない者の方が健康食品の利用が高い傾向を示した (P=0.07)。健康食品の 1 ヶ月平均支出額は 28,900 円であった。そのうち、家計に影響があると答えた者は 59.3%であった。健康食品を使用する前に医療者に相談した者は 32.2%であり、医師が 69.6%、薬剤師が 17.4%、栄養士へ相談した者はいなかった。

#### 【結論】

健康食品を利用している乳がん患者は多い。家計への影響も懸念される。しかし、医療者へ相談しているものは少ない。医療者が適切な健康食品の利用方法を知らせることは、健康食品による被害や不要な健康食品の利用を減らし、家計への負担も軽減すると推察される。